

令和6年度

---

全国学力・学習状況調査  
福岡県学力調査

---

柳川市立小・中学校 調査結果の概要



令和6年10月

柳川市教育委員会

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査

## 柳川市立小・中学校 調査結果の概要

### － 目 次 －

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>2</b>
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査日及び調査教科	
4 調査内容	
<b>II 学力調査結果の概要</b>	
<b>全国学力・学習状況調査の結果</b> .....	<b>3</b>
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
3 小・中学校 児童生徒質問紙調査の結果	
<b>福岡県学力調査の結果</b> .....	<b>6</b>
1 柳川市の平均正答率の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）	
2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）	
<b>III まとめと今後の取組</b> .....	<b>8</b>
1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針	
2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題	
3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想	

#### ※ 参考

全国学力・学習状況調査の「学力調査問題」及び「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」の内容及び令和6年度の全国の調査結果と福岡県の調査結果の詳細は、以下の web ページにてご参照ください。

#### ○ 全国学力・学習状況調査の問題及び結果（既に掲載済み）

国立教育政策研究所

教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」 URL : <http://www.nier.go.jp/>

#### ○ 福岡県学力調査の結果（今後、福岡県教育委員会ホームページに掲載予定）

福岡県教育委員会 義務教育課

「令和6年度全国学力・学習状況調査結果報告書、福岡県学力調査結果報告書」

URL : <http://gimu.fku.ed.jp/Default1.aspx>

令和6年度 全国学力・学習状況調査、福岡県学力調査  
柳川市立小・中学校 調査結果の概要

## I 調査の概要

### 1 調査目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に、把握・分析し、柳川市教育施策に基づく取組の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査対象

○ 全国学力・学習状況調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校（全 19 校） 第 6 学年の児童———— 548 名</li> <li>・ 中学校（全 6 校） 第 3 学年の生徒———— 478 名</li> </ul>
○ 福岡県学力調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校（全 19 校） 第 5 学年の児童———— 464 名</li> <li>・ 中学校（全 6 校） 第 1 学年の生徒———— 464 名</li> <li>・ 中学校（全 6 校） 第 2 学年の生徒———— 504 名</li> </ul>

### 3 調査日及び調査教科

調査種別	調査日	調査教科及び項目
○ 全国学力・学習状況調査	令和 6 年 4 月 18 日（木）	国語（小・中）、算数（小）、数学（中）
○ 福岡県学力調査	令和 6 年 6 月 18 日（火）	国語（小・中）、算数（小）、数学（中）

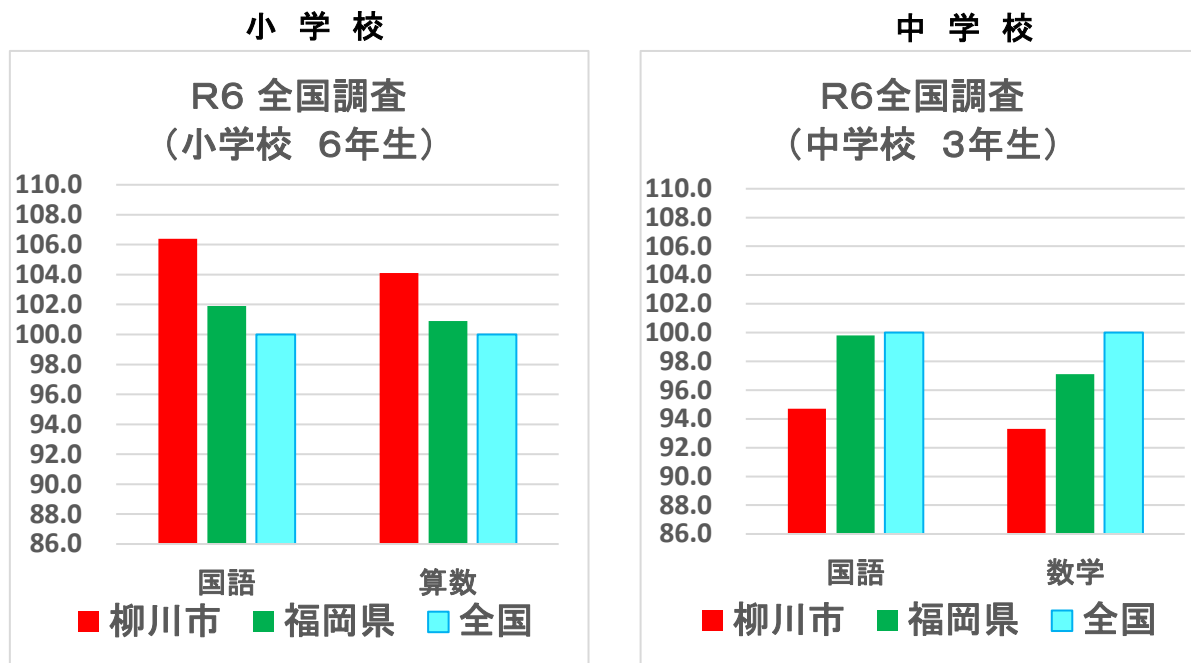
### 4 調査内容

- (1) 身につけておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において、必要不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等。
- (2) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のために構想を立て実践し、評価・改善する力 等。

## Ⅱ 学力の結果

### 全国学力状況調査の結果

#### 1 柳川市の平均正答率（全国比：全国=100%）の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）



小学校	国語	算数
柳川市	106.4	104.1
福岡県	101.9	100.9
全国	100.0	100.0

中学校	国語	数学
柳川市	94.7	93.3
福岡県	100.3	100.0
全国	100.0	100.0

#### 【全体の状況】

- 小学校は、国語、算数ともに全国平均を上回っているものの、令和5年度より国語、算数ともに低下傾向がみられる。  
(令和5年度の柳川市の平均 国語107.1 算数108.8)
- 中学校は、国語、数学ともに全国平均を下回っており、令和5年度より国語、数学ともに低下傾向がみられる。  
(令和5年度の柳川市の平均 国語 98.9 数学 96.1)
- 平均無回答率（回答していない問題）は、小学校では国語、算数の全ての問題において全国より低い傾向である。中学校の無回答率では、国語で15問中3問、数学で16問中3問が全国より高かった。
- 問題形式別にみると、小学校では国語、算数ともに「記述式」の問題において全国よりもやや高い状況である。中学校では、国語、数学ともに「記述式」の問題が低い状況がみられ、課題である。

## 【小学校】

- 国語は全国より6.4ポイント上回った。内容別では、「話すこと・聞くこと」が2.3ポイント、「書くこと」が7.7ポイント、「読むこと」が4.6ポイント全国を上回った。評価の観点では、知識・技能が5.2ポイント、思考力・判断力・表現力が4.5ポイント全国を上回った。
- 算数は全国より4.1ポイント上回った。「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の全ての領域で全国を上回った。評価の観点では、知識・技能が2.6、思考・判断・表現が3.0ポイント全国を上回った。

## 【中学校】

- 国語は全国より5.3ポイント下回った。令和5年度より4.2ポイント低下した。内容別では、「話すこと・聞くこと」が2.9ポイント、「書くこと」が6.3ポイント、「読むこと」が3.6ポイント全国を下回った。評価の観点では、知識・技能が1.5ポイント、思考力・判断力・表現力が4.0ポイント全国を下回った。
- 数学は全国より6.7ポイント下回った。令和5年度より2.8ポイント低下した。「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の全ての領域で全国を下回った。評価の観点では、知識・技能が3.4ポイント、思考・判断・表現が3.1ポイント全国を下回った。

## 2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

### （1）小学校国語

- 学習指導要領の内容では、知識・技能、思考力・判断力・表現力等とも全国より正答率が高い。知識・技能では5.2ポイント、思考・判断・表現では4.5ポイント上回り、良好である。
- 問題形式では、選択式、記述式の正答率が全国より高い。特に、記述式では、全国より正答率が12.1ポイント上回っていた。
- 「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」は、正答率が全国を4.3ポイント上回り、良好である。
- 「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」は、正答率が全国を14.3ポイント上回り、良好である。
- 「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかどうかをみる」は、正答率が全国を11.4ポイント上回り、良好である。
- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」は、正答率が全国を6.2ポイント上回り、良好である。
- 「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」は、正答率が全国を1.2ポイント下回っており、課題である。

### （2）小学校算数

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が高い。「数と計算」は1.5ポイント、「図形」は3.0ポイント、「データの活用」は5.2ポイント全国を上回り、良好である。
- 16の問題の内、13の問題が全国を上回っている。全般的に知識・技能の定着が進んでいる。

- 問題形式では、選択式、短答式、記述式の全て正答率が全国より高い。特に、記述式では、全国より正答率が4.8ポイント上回っていた。
- 「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる」は、正答率が全国を8.9ポイント上回り、良好である。
- 「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する」は、正答率が全国を13.9ポイント上回り、良好である。
- 「家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く」は、正答率が全国と同等であるが、正答率が31.6%であり、課題である。

### (3) 中学校国語

- 思考力、判断力、表現力等では、「話すこと、聞くこと」は正答率が全国より2.9ポイント下回っている。「書くこと」は6.3ポイント、「読むこと」は2.6ポイント、それぞれ全国正答率を下回っている。特に、書くことの能力に課題がある。
- 「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」は、正答率が全国を1.7ポイント上回り、良好である。
- 「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる」が全国より7.7ポイント下回り、課題である。
- 「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」が全国より8.3ポイント下回り、課題である。
- 「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」は、正答率が全国と同等であり、県の正答率より上回っている。

### (4) 中学校数学

- 領域別では、どの領域も全国より正答率が低い。「数と式」は2.3ポイント、「図形」は、5.0ポイント、「関数」は2.7ポイント、「データの活用」は2.2ポイント全国の正答率を下回った。
- 「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる」の正答率は、全国を3.8ポイント上回り、良好である。
- 「等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる」の正答率は、全国と同等であり、県の正答率を3.0ポイント上回っている。
- 「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」の正答率は、全国を8.2ポイント下回り、課題である。
- 「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」の正答率は、全国を5.6ポイント下回り、課題である。
- 「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」の正答率は、15.9%であるとともに、全国を9.9ポイント下回り、課題である。

### 3 小・中学校児童生徒質問紙調査の結果（柳川市がめざす子どもと関連する項目）

#### （1）主体的な問題解決の学びについて

これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか。	小学6年	中学3年
「1 当てはまる」「2 どちらかといえば当てはまる」をあわせた値	柳川市 (78.0%)	柳川市 (68.1%)
	全国 (81.9%)	全国 (80.3%)
	全国比 -3.9%	全国比 -12.2%

#### （2）友達との話し合いや伝え合う活動の深まりについて

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか。	小学6年	中学3年
「1 当てはまる」「2 どちらかといえば当てはまる」をあわせた値	柳川市 (85.0%)	柳川市 (80.3%)
	全国 (86.3%)	全国 (86.1%)
	全国比 -1.3%	全国比 -5.8%

#### （3）ICT機器の活用について

これまでの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースでよく理解しながら学習を進めることができますか。	小学6年	中学3年
「1 とてもそう思う」「2 そう思う」をあわせた値	柳川市 (84.9%)	柳川市 (77.7%)
	全国 (85.5%)	全国 (80.2%)
	全国比 -0.6%	全国比 -2.5%

#### （4）地域とのかかわり、ふるさと意識について

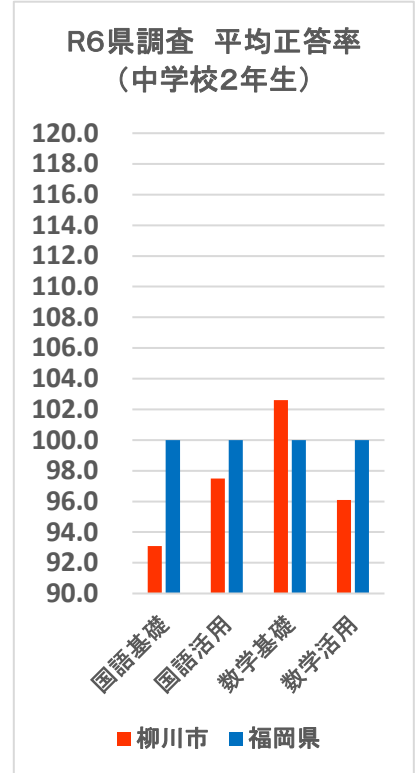
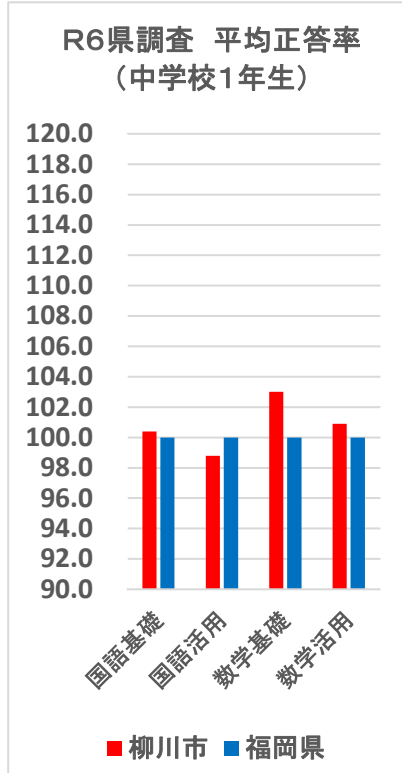
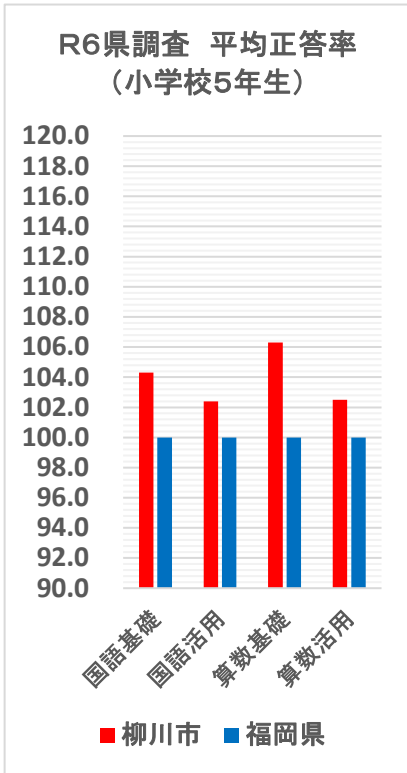
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	小学6年	中学3年
「1 当てはまる」「2 どちらかといえば当てはまる」をあわせた値	柳川市 (86.8%)	柳川市 (67.4%)
	全国 (83.5%)	全国 (76.1%)
	全国比 +3.3%	全国比 -8.7%

# 福岡県学力調査の結果

1 柳川市の平均正答率（県比：県＝100%）の状況及び全体の傾向（国語、算数・数学）

## 小 学 校

## 中 学 校



小学 5年	国語 基礎	国語 活用	算数 基礎	算数 活用
柳川市	104.3	102.4	106.3	102.5
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	4.3	2.4	6.3	2.5

中学 1年	国語 基礎	国語 活用	数学 基礎	数学 活用
柳川市	100.4	98.8	103.0	100.9
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	0.4	-1.2	3.0	0.9

中学 2年	国語 基礎	国語 活用	数学 基礎	数学 活用
柳川市	93.1	97.5	102.6	96.1
福岡県	100.0	100.0	100.0	100.0
県差	-6.9	-2.5	2.6	-3.9

### 【全体の状況】

- 小学校5年生においては、国語、算数の基礎・活用問題の全てが県平均を上回っている（+2.5～+6.3ポイント）。
- 中学校1年生においては、国語の基礎、数学の基礎・活用は県平均を上回っている（+0.4～+3.0ポイント）。国語の活用は県平均を下回っている（-1.2ポイント）。
- 中学校2年生においては、数学の基礎は県平均を上回っている（+2.6ポイント）。国語の基礎・活用、数学の活用は県平均を下回っている（-6.9～-2.5ポイント）。

2 小・中学校教科ごとの傾向（国語、算数・数学）

(1) 小学校5年生

### 【国語】

- 「目的や必要に応じて自分の考えの理由を挙げて書くことができる。」は、県正答率を5.2ポイント上回っている。
- 「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことができる。」は、県正答率を5.3ポイント上回っている。
- 「考えを支える理由や事例との関係を明確にした書き表し方の工夫を捉えることができる。」は、県正答率を17.4ポイント上回っている。

- 「話の中心が明確になるよう話の構成を考えて、場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。」は、県正答率を2.4<sup>ポ</sup> イト上回っているが、期待正答率は9.6<sup>ポ</sup> イト下回っている。

### 【算数】

- 「複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えることができる。」は、県正答率を2.7<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「棒グラフから必要な数量を読み取り、数量の関係を説明することができる。」は、県正答率を3.6<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「二次元の表を読み取り、条件に合う児童の人数が基準の何倍にあたるかを説明することができる。」は、県正答率を6.8<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「余りのある除法の場面において、被除数を求める式について理解している。」は、県正答率を5.3<sup>ポ</sup> イト下回り、期待正答率は、7.0<sup>ポ</sup> イト下回っている。

## (2) 中学校 1 年生

### 【国語】

- 「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができる。」は、県正答率を1.4<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる」は、県正答率を1.7<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「文と文との接続の関係について理解することができる」は、県正答率を1.2<sup>ポ</sup> イト下回っている。
- 「図やグラフを用いて、自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫することができる。」は、県正答率を3.4<sup>ポ</sup> イト下回っており、期待正答率は17.0<sup>ポ</sup> イト下回っている。

### 【数学】

- 「小数÷小数(余りあり)の計算ができる」は、県正答率を10.0<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「平行について正しく理解し、台形の面積と三角形の面積の関係について説明することができる。」は、県正答率を2.8<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「全体の人数と百分率で表した割合から条件にあった人数を求め、比較し、正しいかどうかを説明することができる。」は、県正答率を5.1<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、同じ表現方法を適用して記述することができる。」は、県正答率を1.8<sup>ポ</sup> イト下回り、期待正答率を23.0<sup>ポ</sup> イト下回っている。

## (3) 中学校 2 年生

### 【国語】

- 「書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。」は、県正答率を1.2<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。」は、県正答率を3.2<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「文章の内容を、叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。」は、県正答率を5.1<sup>ポ</sup> イト下回っており、期待正答率に12.6<sup>ポ</sup> イト届いていない。
- 「自分の考えや根拠が明確になるように、事実と意見との関係に注意して、話の構成を考えることができる。」は、県正答率を2.0<sup>ポ</sup> イト下回っている。

### 【数学】

- 「正負の分数の加減の計算ができる」は、県正答率を2.1<sup>ポ</sup> イト上回っている。
- 「度数分布表をもとに、ある階級までの累積相対度数を求めることができる」は、県正答率を1.8<sup>ポ</sup> イト下回っており、期待正答率は12.6<sup>ポ</sup> イト下回っている。
- 「2つの立体の表面積の関係について、数学的な表現を用いて説明することができる。」は、県正答率を2.3<sup>ポ</sup> イト下回っており、期待正答率を27.1<sup>ポ</sup> イト下回っている。
- 「事象に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる。」は、県正答率を1.1<sup>ポ</sup> イト上回っており、期待正答率を6.1<sup>ポ</sup> イト上回っている。



### Ⅲ まとめと今後の取組

#### 1 学力向上に向けた柳川市教育委員会の基本方針

柳川市総合計画、柳川市教育大綱、教育施策に基づき、小・中学校連携した「中学校区スタンダード」の実践による基盤づくりを図りながら、確かな学力（主体的に課題解決する子ども）、ふるさとを愛する心、社会の変化に対応する心を身につけさせ、「ふるさと柳川を愛し、誇りに思う子ども」を育成すること。

#### 2 柳川市立各小・中学校の学力向上についての取組の状況と課題

##### (1) 小学校

- 柳川市小・中学校共通実践項目として、小中9年間を見据えた学校づくりを土台に据え、これまで「国語科教育の充実」「算数科教育の充実」「ふるさと『やながわ』学習の充実」「GIGAスクール構想の推進」などに取り組んできている。全小学校で主体的、対話的で深い学びをめざす学びの場を校内研修として位置付けたり、ICTの効果的活用を推進したり、学習の振り返りやまとめを徹底したりしながら取り組んできたことが、国・県の調査で良好な状況につながっている要因と考えられる。
- 日常的な授業改善につなげるためには、確かな教材研究に基づく授業実践の積み上げと、学力調査結果などから課題を明確にすることが大切である。併せて、小・中学校の連携を図り、校内研修等で授業改善への取組の共通理解と共通実践の継続化と徹底を図る必要がある。

##### (2) 中学校

- 全国学力調査の国語及び、数学では、R5年度と比べてやや低下傾向にある。中学校において、各教科間をまたぐ授業づくりのスタンダードの位置づけ、少人数やTTを活用した指導方法の工夫、個別学習や補充学習、家庭学習を充実させていく必要がある。
- 学校間、教科間、学年間の格差があるが、全中学校で落ち着いた学校生活を送っている。しかし、全体としてみると学力がやや下降傾向にあるため、教師の授業力のさらなる向上は課題である。授業研究を伴う研修の強化が求められる。
- R6年度の共通実践項目の「生徒の主体的な活動をつくる授業実践」に向けて、生徒の実態を捉えた授業準備、自力解決の充実と個を生かした表現活動の積み上げが大切である。併せて、学力調査結果の分析をもとにした授業改善に向けて、共通理解を図り、実践につなげる必要がある。

##### (3) 小・中学校共通

- 本市が重視している計画・実施・評価・改善の教育活動が各学校で実施されている。また、児童・生徒のよい点や可能性を見だし、評価する取組もしっかりと推進されており、学力向上に結びついていることが伺える。
- 全校において学力分析から確実に学力を向上させるための取組指標や成果指標等の学力向上プランが策定され、取り組まれている。今後、CD層の児童生徒を対象とした授業改善、組織的対応が求められる。
- 中学校区内において、近接小・中学校と授業研究会等の合同研修会を実施し、共通的に取り組む内容等として「中学校区スタンダード」に取り組んだことが学力向上に結びついていると考える。今後も小中9年間を見据えた継続的な取組が求められる。
- 小・中学校共に、学力調査において無回答率が減ってきている。今後も学力向上を支える基盤づくりも大切にしなが、児童生徒が将来の夢や目標を持つこと、自尊感情や自己肯定感を持って「学校が楽しい」と主体的に学ぶ意欲を高めることができるようにして、学力向上につなげていく必要がある。

##### (4) 家庭との連携

- 小中が連携した家庭学習の取組等が進んできている。今後さらに家庭との連携を図り、家庭における計画的な学習の進め方の確立や学習時間の確保、読書時間の確保が求められる。
- 児童・生徒のスマートフォンの所有が増える中、それらの使用についてのルールが不十分な傾向が見られる。SNSの適切な利用の仕方やゲーム使用の時間を含めて、PTAと連携しながら取り組む必要がある。

### 3 柳川市児童生徒の学力向上に向けての施策と基本構想

#### (1) 柳川市教育委員会

- ・調査結果の分析
- ・各学校の取組状況の確認・指導
- ・9年間を見通した小・中学校の共通実践
- ・職務に応じた研修（主幹教諭研修会、研究主任研修会、支援員研修）
- ・教育研究所プロジェクト事業の推進（プログラミング教育 小・中）
- ・授業力向上研修会
- ・学力向上のための指導主事派遣
- ・若年教員指導力向上訪問指導
- ・アウトリーチによる研究支援

#### (2) 小学校

##### ◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・学力調査等の結果分析をもとにした授業改善とCD層への対応
- ・教材研究の力を向上させる校内研修の充実(模擬授業等の事前研修の充実)
- ・中学校とのつながりを意識した教育活動の実施
- ・若年教師の授業力の向上を図る研修会等(授業力向上研修会、OJT研修会)の実施

#### (3) 中学校

##### ◎学校実態に応じた短期的取組、中・長期的取組の設定

- ・全職員による自校の学力分析をもとにした授業改善と学習指導のPDCA力の育成
- ・模擬授業や事例研究を含めた授業を伴う実践的な研修の実施
- ・学習状況の把握と学習定着度の見取りをもとにしたCD層への組織的対応
- ・週案の定着と活用

#### (4) 小・中学校共通の取組

##### 【各小・中学校で共通で実践する項目】

###### <小・中学校>

- ◎GIGAスクール構想の推進
  - ・交流場面や発信におけるタブレット端末の効果的活用
  - ・学習記録のタブレット端末への保存と活用、CBT化への対応
- ◎地域の「ひと・もの・こと」とつながる活動の充実
  - ・総合的な学習の時間における探究活動の質の向上
  - ・コミュニティースクールにおける熟議、協働の推進

###### <小学校>

- ◎「ふるさと『やながわ』学習の充実」
  - ・ふるさと『やながわ』学習プログラム」の創造及び実践

###### <中学校>

- ◎生徒の主体的な活動をつくる授業実践
  - ・生徒の課題意識に着目した授業準備

##### 【教育課程外において】

- ◎補充学習の充実
  - ・評価に基づく補充学習の充実、QRコンテンツを活用した復習や振り返り学習
  - ・学校教育課程外に位置づけている朝の時間、ドリルタイムの充実、個に応じた個別支援
- 家庭学習の充実
  - ・家庭学習をしない児童・生徒0%を目指す取組の充実（授業との連動、確実な見取り、保護者との連携等）
  - ・タブレット端末を活用した家庭学習の工夫
  - ・スマートフォン使用の適切なルールについての啓発

令和6年度

全国学力学習状況調査  
福岡県学力調査

『調査結果報告書(柳川市)』

---

令和6年10月発行

発行者 柳川市教育委員会  
福岡県柳川市三橋町正行 431 番地  
電話 0944-77-8852(教育指導室)

---

